



事業名：安乗埼灯台利活用推進事業

コンソーシアム名：安乗埼灯台観光活性化推進コンソーシアム

対象灯台：安乗埼灯台（三重県志摩市）

企画概要

事業名：安乗埼灯台利活用推進事業

令和5年度の取り組み

- ・ 灯台を活用したイベントを開催し、灯台や資料館に来た人たちの意見を聞きました。
- ・ 地域の人たちと一緒に、安乗埼灯台をもっと活用するにはどうしたらいいか、話し合いました。

令和6年度の計画

- ・ 令和5年の成果を基に、安乗地区と志摩市全体がこれからも元気でいられるような計画を作ります。
- ・ 地域みんなが協力できる仕組みを作り、具体的な活動を始めていきます。
- ・ 安乗埼灯台資料館をもっと使いやすくリニューアルしていきます。



安乗地区住民らによる 安乗地区観光活性化事業の試行

安乗地区の住民と観光事業者が中心となり、安乗埼灯台を活用したイベントやマルシェを定期的に開催することで、地域活性化と集客を目指す。



安乗地区観光活性化 ワークショップの実施

安乗地区の観光活性化を目指し、市民ワークショップを拡大して、観光事業者や住民が主体となり、具体的な活性化事業を立案・実行する。



志摩市立安乗埼灯台資料館の 基本設計の実施

イベント開催や市民活動の拠点として活用できるようにリニューアルを行う。ワークショップと連携して事業を進めることで、相乗効果を高める。



安乗地区が持つポテンシャル

安乗埼灯台のある安乗地区は、歴史的に交通の要衝として重要な地であり、安乗文楽をはじめとし、三番叟、しめ切り神事等の文化・芸能が多く残されている他、安乗ふぐをはじめとする豊かな海産物に恵まれている地でもある。



私たちが取り組む理由②

安乗地区に埋もれる価値を発掘し、その価値を地域で共有することにより、シビックプライドの造成を進める。



私たちが取り組む理由①

安乗埼灯台のみならず、安乗地区にある様々な固有な資源や食の魅力を活かし、それらを組み合わせることでシナジーを創出し、内外の人たちに「愛される」安乗地区を目指す。



私たちが取り組む理由③

関心が高い市民のみならず、宿泊施設や漁業関係者等、より多くの「ALL 安乗」の参画による地域活性化を図る。



目標

Plan / 計画時点

地元特産品販売やワークショップ、灯台ライトアップなどの魅力的なコンテンツを企画し、SNSや地域メディアを活用して積極的に広報する。地元企業や団体との連携を強化し、協賛や出店を募ることで収益確保を目指す。



Do 実行 / 2025年2月時点の達成状況

「安乗埼灯台マルシェ」が地元の名物イベントとなり、2024年度以降、定期開催できる実施体制や設備、事業計画・収支計画が整う。自己資金の目途が立つ。

企画運営パートナー

1

志摩市

安乗埼灯台周辺地区の活性化による観光客数の増加。地域の賑わいの創出。
志摩市立灯台資料館の有効活用に向けて、方策を検証することができる。

2

一般社団法人志摩スポーツコミッション

マルシェの開催による地域活性化と自社PRが可能。

3

志摩市灯台活用推進協議会

灯台の利活用による地域の灯台観光の活性化を図ることができる。

4

あのりおこし

安乗地区の活性化を図ることが出来る。

地域活性化を目指すプラットフォームを構築することが出来る。



地域プラットフォームのづくりがスタート！

安乗埼灯台まつりが誕生し、今後も資料館を拠点とした灯台観光を推進

1

志摩市 ≫ 志摩市観光課を中心に連携

イベントでは延べ2,000名が来場し、年間の灯台参観者数向上に寄与した。地域の子どもたちからは、灯台を身近に感じてもらうきっかけとなった。

2

一般社団法人志摩スポーツコミッション

これまで数多くのイベントを開催してきた実績から、 ≫ イベント運営のサポートを実施
知識や経験が豊富。今回も備品提供などで、安乗埼灯台まつりをサポートした。

3

志摩市灯台活用推進協議会 ≫ 航路標識協力団体として連携

冬の段で開催した安乗埼灯台夜間特別参観には、延べ200人が参加。普段は入れない夜の灯台ということもあり、来場者からは好評であった。今後も継続していきたい。

4

あのりおこし ≫ 地域プラットフォームの核として活動開始

地域プラットフォームの足掛かりができたが、地域の協力体制を得ていくために、課題が残った。航路標識協力団体にも指定され、今後の活躍が期待される。



👍 良かったこと

👍 次回開催への機運が高まった！

灯台を活用したイベントはこれまで、何度か行われてきたが、安定的な運営ノウハウの礎ができた。また、イベント来場者や出演者等の関係者からは、イベントの継続開催を望む声が多く上がっている。

👍 航路標識協力団体にも指定され飛躍が期待できる

地域の団体が、海上保安庁の「航路標識協力団体制度」にも指定され、今後灯台を活用した活動が出来るようになった。灯台夜間特別参観等を企画運営していく予定。



反省点・改善案



イベントの収支に課題

灯台の立地上、安全なイベント運営に関しては、警備員やマイクロバスの運行がほぼ必須。自走化に課題が残った。



地域の宿泊事業者との連携に課題

夏・冬ともに夜間イベントを実施し、地域への宿泊者増加による経済効果の拡大を図ったが、宿泊には繋がらなかった。今後も連携を模索する必要がある。

事業活動として 何をするのか

～価値を提供する源泉となる活動～

01

事業活動その1

安乗地区観光活性化ワークショップの実施

事業活動その1：安乗地区観光活性化ワークショップの実施

地域全体で考えるこれからの安乗埼灯台観光の活性化

観光関係事業者及び地域住民有志の参加を募り、令和5年度に立ち上げた市民ワークショップをより拡大した会議体を構成する。当該ワークショップにおいては、安乗埼灯台資料館、安乗埼園地、及び安乗地区内において実施すべき「安乗地区観光活性化事業」を立案し、自ら試行し、今後の持続的な体制づくりの礎とする。



安乗埼灯台の観光活用と地域全体への波及効果を考える

- ◇地域の異業種異分野の参加者が参加することで様々な視点から灯台観光を考える。
- ◇安乗地区活性化事業を自ら考え、試行していくことで、持続的な体制づくりの礎とする。

イベントの企画立案・試行には至ったが、最終的には参加者が固定化されていった

1 安乗埼灯台まつり

8月：安乗埼灯台まつり 夏の段 漁師町の縁日、12月：安乗埼灯台まつり 冬の段 漁師町の燈日 (AKARIBI) を企画。企画立案から試行まで、地域主体で行うことが出来た。

2 資料館の活用検討

安乗埼灯台資料館の今後の活用方法について様々な意見が出され、基本設計の礎となった。



実施日	実施回	事業検討	資料館活用検討
6/22	第1回	●	●
7/26	第2回	●	
(8/3 夏の段 本番)			
8/26	第3回	●	
10/16	第4回	●	●
10/18	第5回	●	●
11/13	第6回	●	
(12/14 冬の段 本番)			
1/22	第7回	●	●



良かったこと

企画立案・試行まで完走！

地域の飲食店経営者や、人気カフェのオーナー、地域を盛り上げていきたいと思う有志等、多様な参加者によって、地域活性化イベントを企画立案し、自分たちが主体になって運営することが出来た。

今後も資料館を核とした地域づくりを推進

資料館の活用方法について検討し、“クロスポイント”としての活用方法を見出すことが出来た。来年以降のリニューアルに期待が高まった。



反省点・改善案



ワークショップにおいて、イベントの企画・立案を進めることが出来たが、参加者が徐々に固定化されてきたことと、一部の参加者への負担が偏ることとなってしまった。地域の宿泊事業者への参画を呼び掛け、地域経済の活性化を推進していく必要がある。

02

事業活動その2

安乗地区観光活性化事業の試行

事業活動その2：安乗地区観光活性化事業の試行

1 夏季イベント

地区住民や観光事業者が中心となり、イベントを実施。マルシェも同時開催することで家族連れをメインのターゲットとする。

2 冬季イベント

地域住民や観光客を対象に、市内への宿泊客増加を見込んだ夜間マルシェと灯台ライトアップイベントを開催する。



参加者数1,200名！地域から継続を望む声が多数！

しかし、地元参加者が多く、広域からの参加者を募ることが出来なかった

安乗埼灯台まつり

夏の段・冬の段 (年2回開催)

漁師町をコンセプトに、灯台麓の安乗岬園地にて灯台まつりを企画。

- 夏は縁日をモチーフにしたイベント開催。唐揚げやりんご飴などの屋台グルメが集結。
- 冬場は灯台のライトアップとイルミネーションにより季節感を演出。夜間特別参観も実施
- 安乗地区の定番グルメも販売 (てこね寿司、干物等)
- 志摩市ゆかりのアーティスト3組が参加。灯台と音楽を提供することで、灯台の新たな楽しみ方を創出
- 灯台クイズは超難問！？大人も子どもも熱中する灯台にまつわるクイズゲームを実施
- 地元の人気カフェが、ご当地スイーツのきんこ芋を使った灯台スイーツを限定販売
- 交通アクセスが厳しいため、マイクロバスを運行



良かったこと



灯台を身近に感じてもらうことに成功！

自分たちで企画から実施に至るまでのイベント運営のノウハウを得ることが出来た。

音楽や縁日、イルミネーションなどの雰囲気づくりにより、特別感を演出することが出来た。

また、地元のアーティストの出演により、普段灯台に関心の薄い層の来客にも繋がった。

地域の子どもたちからは、「また来年も開催して欲しい」など、継続した開催を望む声が多数聞かれた。



反省点・改善案



イベント集客数には限界がある！
アクセス路のキャパシティが小さく、過度な負荷は望ましくない



より「地域の輪」を広げる必要がある！
地域関係者それぞれが試行錯誤している力を束ねて、より魅力のある事業をすべき

02

事業活動その3 安乗地区の活性化に向けて

事業活動その3：安乗地区の活性化に向けて

ソフトとハードの両輪により、地域の活性化を図るため、灯台資料館を地域活性化の核となる施設となることを目指す。志摩市内の持続可能な観光地経営に寄与する施設とする。



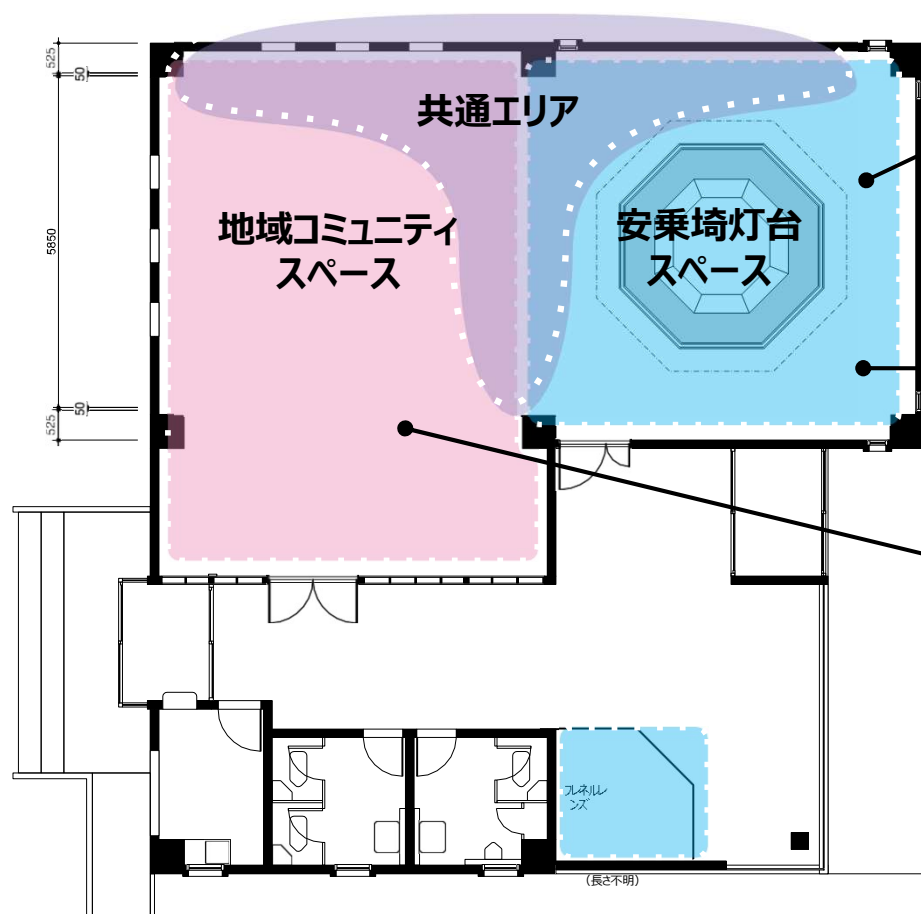
事業活動その3 安乗埼灯台資料館基本設計の実施

3つの「クロスポイント」

“人”と“人”を結ぶ
クロスポイント

“過去”と“現在”を結ぶ
クロスポイント

“空間”と“空間”を結ぶ
クロスポイント



“空間”と“空間”を結ぶ
クロスポイント

“過去”と“現在”を結ぶ
クロスポイント

“人”と“人”を結ぶ
クロスポイント



大きく3つのエリアに分けられたスペースそれぞれが、
クロスポイントとなり
安乗の交流拠点としての機能を強化していく



良かったこと



灯台資料館の今後の活用方法について
灯台資料の展示のみならず、地域コミュニティスペースの活用など、幅広い用途で活用していく方向性が見えた

- まちづくりワークショップの開催場所として
- イベント開催時の基地として
- 企画展の開催場所として
- ミニシアターの上映場所として
- 安乗埼灯台の歴史を学ぶ学習場所として
- まちあるきMAPを使ったまちあるきイベントの核とし
- 各種情報発信の場所として …etc.



反省点・改善案



具体的な活用方法について更に詰めて検討していく必要がある。
有効的な活用方法や、どうやって来場者を呼び込むかを今後も考えていきたい！

顧客ターゲットと 提供するベネフィット

【事業活動その1 安乗地区観光活性化ワークショップの実施】

メインターゲット

1 安乗地区住民及び市内の観光事業者・宿泊事業者

安乗地区の観光活性化に向けて、地区住民や市内の観光事業者・宿泊事業者を対象としたワークショップを開催し、観光客や市民を対象にしたイベントや催しを自ら試行し、今後の持続的な体制づくりの礎としていく。また、安乗埼灯台に隣接する灯台資料館についても、イベントにおける収益事業の場として、また市民活動の拠点として活用できるよう、アイデア出しを行っていく。

【事業活動その2 安乗地区観光活性化事業の試行】

メインターゲット

1 30代～40代の親子連れ

令和5年度の調査結果から、安乗埼灯台には園地やカフェを目的に親子連れが多く訪れており、それらを対象にしたマルシェやイベントを開催する。

サブターゲット

2 20代～60代の仲のいいカップル

灯台のライトアップや夜間マルシェ等で滞在時間の延長と地域への宿泊に期待する。

【事業活動その3 安乗地区の活性化に向けて】

メインターゲット

1 安乗地区の観光活性化に向けて、地域の集客事業の拠点となるような施設への改修を目指す。イベントにおける収益事業の場や市民活動の拠点化を目指す。



それぞれの事業ターゲットにおける所感

1 安乗地区観光活性化ワークショップにおけるターゲット

<メインターゲット>安乗地区住民及び市内の観光事業者・宿泊事業者

- ・市内の観光事業者、宿泊事業者等、これまでの参加者以外の想定受益者に対しては、本年度における当該事業にコミットメントしたいと思わせる魅力を喚起するに至らなかった。
- ・しかしながら、イベントを中心とした誘客よりもむしろ灯台が地域のシンボルであるがゆえに灯台及び園地の魅力化を推進したいという反応が得られたことは有益であった。

2 安乗地区観光活性化事業の試行におけるターゲット

<メインターゲット>30代～40代の親子連れ

<サブターゲット>20代～60代の仲のいいカップル

- ・アンケート調査は実施しなかったため詳細は不明だが、特にメインターゲットについては近隣居住者を中心に強く訴求したとの実感がある。
- ・しかしながら、特にサブターゲットで企図した「滞在時間の延伸」については、宿泊への波及効果は確認できず、空振りに終わった感が否めない。


3 安乗地区の活性化に向けてにおけるターゲット


<メインターゲット>イベントにおける収益事業の場や市民活動の拠点化に向けた施設改修

- ・ワークショップの実施のなかでイベントや市民活動の拠点としての意見交換を行い、それを基本構想・基本計画に反映させている。
- ・今後はその受け皿となる市民活動の組織化を進めることに並行して、施設の活用方法を精査していく必要がある。

良かったこと



 地域集客についての手ごたえを感じる一方、広域集客を推進するうえでの課題が明らかになった

 各事業者等との接触を行うことで、地域が真に求めていること、地域活性化のネックとなることを知ることができた

 地域の人々に「使われる資料館」としての礎となる計画策定ができた。



反省点・改善案①

安乗埼灯台及びその周辺地域の魅力をさらに掘り起こし、それを広域に届ける取り組みを推進する必要がある。

そのうえで下記2点が課題

- より深い地域ストーリーを把握する持続的な仕組みづくり
- 情報を広域に届ける戦略と方策

反省点・改善案②

イベント型に偏らない、安乗埼灯台の魅力化が必要。

魅力化の方針は下記2点：

- 地域の人々が愛すべき心の拠り所としての、灯台周辺環境整備
- 地域の声を聴き、地域のひとりでも多くの人、特に事業者が受益者となる事業

反省点・改善案③

資料館活用における基本方針は策定できたが、その具体的な事業計画の作成には至っていない。

さらにはそれを実際に運用する母体と、その活動収益源についての考察がさらに必要。

チャネル

～顧客に事業の価値を届ける
経路、確認する経路～



認知の獲得

ポスター、チラシ、Instagram、マスコミ (リリース配信)、主催者・協力店の発信、隣接宿泊施設での案内やPOP、行政チャンネル、市公式YouTubeチャンネルでの配信、新聞折込等での周知。

興味関心の獲得

灯台およびイベントの情報や魅力をウェブ、パンフ、YouTube動画で発信

参加時の、顧客への事業価値の提供

状況確認 (アンケート)
参加者アンケートを通じ、満足度や、イベントへの意見・提案をいただく

再訪の獲得

夏季イベント時に冬季イベントの告知も行うことで、再訪を促す。

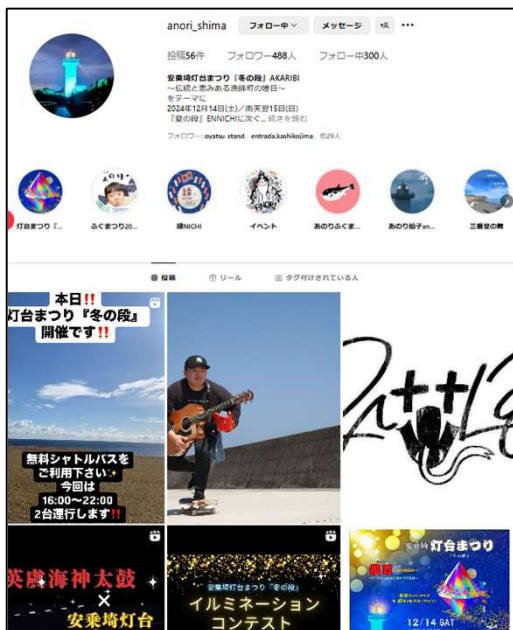


◎多くの認知を獲得

チラシ作成/配布、主催者・協力者の口コミ、マスコミなどを利用して発信することで多くの認知を獲得。また、行政チャンネルへも出演することで、地域から広く知られることとなった。また、夏イベント後、冬イベントの告知も行うことで、認知拡大に繋がった。


◎事業価値の提供状況を確認


イベント終了後、参加者/地区住民へアンケートやヒアリングを行い、イベントに対する満足度や改善点の洗い出しを実施。次年度以降、より良い企画内容へとブラッシュアップする。



良かったこと



 行政チャンネルや地元のケーブルテレビと連携することにより、地域に幅広く周知をすることが出来た。

 PRTIMESにはイベントの事前事後含め計4回発信することができ、述べ73のネット記事に掲載された。



反省点・改善案



地元には密着した周知を行うことが出来たが、伊勢志摩エリア外への周知力が足りず、広域からの集客に課題が残った。

顧客との長期的な
関係構築のために
実行できる施策

灯台を中心にした イベントの夏冬開催

夏に開催するイベントにおいて、冬イベントの開催を告知し、冬イベントへの再来訪を促す。令和7年度以降も定期的にイベントを開催することで、イベント開催を定着させる。

ワークショップを通じた 地域への周知

ワークショップを通じて、地域でのイベント認知度を上げる。

Instagram等のSNS

イベント中の特別企画を案内。終了後も定期的に投稿し、灯台の魅力を伝え、関係性をキープする。



1 灯台を中心にした イベントの夏冬開催

イベントを年間2回開催 夏イベントでも冬の告知を達成

夏に開催するイベントにおいて、冬イベントの開催を告知し、冬イベントへの再来訪を促した。令和7年度以降も定期的にイベントを開催することで、イベント開催を定着させていきたい。

2 ワークショップを通じた 地域への周知

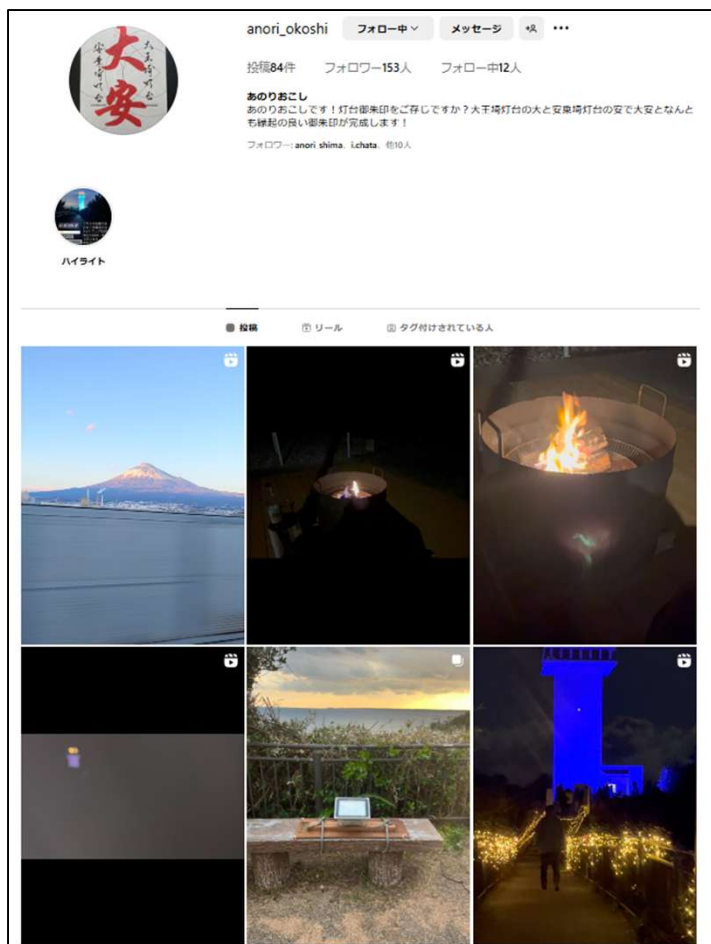
年間を通して定期的にワークショップを開催

ワークショップに加えて地域の関係団体へヒアリングも実施した。灯台観光に関する意見のみならず、地域活性化に向けて意見交換した内容を今後の施策に役立てていきたい。

3 Instagram等のSNS

「あのりおこし」や「anori_shima」による配信継続

灯台の景色を中心に安乗埼灯台に関する発信を続けている。開催前よりは反響は収まっているが、続けていくことで関心の継続に繋げたい。



👍 良かったこと

👍 イベント終了後、地域の関連団体へヒアリングを実施することで、イベントに対する思いや反省点が見えてきた。地域内での関係構築に繋がっている。

👍 情報発信のプラットフォームを維持することで、『安乗埼灯台まつり』を単発ではなく、地元定番イベントとして根付いていける。



反省点・改善案



今後も地域や関係者との連携を密にすることで、関係値を高い状態でキープしていきたい。

事業に必要なリソース ～人、物、情報、許認可～

01

人、物、情報

人

事業企画プロデューサー、事業進行ディレクター、イベント運営スタッフ、広報スタッフ、経理スタッフ、協力者・企業・団体、志摩市、第四管区鳥羽海上保安部

物

テント・椅子・音響設備、ポスター・パンフ・ウェブサイト・Instagram・動画・グッズなどのPRツール

情報

安乗埼灯台の歴史や役割、海と安乗埼灯台にまつわる物語



1 人

限られたリソースを最大限に活用した

- ・ 事業企画プロデューサー：1名
- ・ 事業進行ディレクター：2名
- ・ イベント運営スタッフ：延べ25名
- ・ 広報スタッフ：1名
- ・ 経理スタッフ：1名
- ・ 協力者・団体：志摩市（観光課・広報広聴課）、第四管区鳥羽海上保安部

2 物

交通インフラの補完ツールと広報ツールの活用に課題

- ・ イベントでは、テント・椅子・音響設備等に関しては、地域保有のものを用いたため、滞りなく行うことができた。
- ・ 集客交通インフラの脆弱さを補うため走らせたシャトルバスが、事業収支の足枷となった。
- ・ ウェブサイト、InstagramなどのPRツールのより戦略的な活用が必要。

3 情報

「灯台」を代弁するさらなるコンセプトが必要

- ・ 安乗埼灯台の歴史や役割、海と安乗埼灯台にまつわる物語についてはこれまで把握しているものではコンセプトメイクに支障があり、さらなる深掘りが必要。



👍 良かったこと



キービジュアルの確立

のぼり旗など今回のイベントを継続的に実施していくうえで活用できるグッズを制作することができた。



航路標識協力団体への申請

イベントを通じて、地域内での灯台利活用に関する機運が高まり、海上保安庁の「航路標識協力団体制度」の認定を受けた。



反省点・改善案



イベント等への参加頻度が少なかった事業者へ、なぜ参加できなかったのかヒアリングを行った（別添資料参照）。各団体との連携を深める必要がある。

02

許認可

許認可

志摩市

市有地使用許可

環境省

伊勢志摩国立公園内の許認可・その他法令確認

海上保安庁

国有地および灯台使用許可

保健所

飲食提供許可

1 灯台の維持 管理への自 発的な関与

安乗埼灯台観光活性化に取り組む民間団体が、灯台の維持管理等の”灯台の魅力増進”に寄与する活動を自発的に行う

本地域の中核マネジメント機能を担う「あのおこし」が令和7年4月1日～令和12年3月31日の期間、海上保安庁より、「航路標識協力団体」としての認可を受ける。

<初年度の事業計画>

- ・ 環境美化活動：草刈り・清掃作業
- ・ 簡易な点検
- ・ 知識の普及及び啓発に関する活動：パンフレット等の配布
- ・ 灯台の一般公開

<航路標識の管理等海上保安庁への貢献及び協力>

- ・ 安乗埼灯台構内の草刈り、清掃等
- ・ 日頃の活動で安乗埼灯台を訪問した際の施設の目視点検等
- ・ 台風通過後等の施設の目視点検、点灯確認等
- ・ 安乗埼灯台の異常を発見した場合の鳥羽海上保安部への通報等
- ・ 鳥羽海上保安部が行う安乗埼灯台の一般開放における案内、啓発等の実施
- ・ 海難防止活動の推進、海上保安行政の周知活動等

今後の地域内外への灯台振興を考慮し、「海から灯台を愛でる」活動は避けては通れない。

◎安乗埼灯台近郊に位置する「安乗漁港」の立地を活かし、既存の漁船を用いた不定期航路事業に参入

- ・ 安乗漁協の協力を得て、既存の漁船（定員12名以下）を活用し、「人の運送をする不定期航路事業」の届出を行う。

◎併せてマリンレジャーへの発展を狙う

- ・ 遊漁船業の県知事登録を行う

2 不定期航路 事業への参 画



メディア露出



8月7日 松阪ケーブルテレビ「ニュースMCTV」

のべ75媒体



PR TIMES ウェブ記事



(左) 志摩市観光協会「志摩観光・旅行情報サイト」(右) 伊勢志摩観光コンベンション機構「伊勢志摩観光ナビ」

今後について

A. 事業について

課題

灯台と地域の魅力化をより進めたい！

灯台や園地の空間としての魅力づくりがもっと必要

イベント集客には限界がある！

アクセス路のキャパシティが小さく、過度な負荷は望ましくない



施策

◎灯台と地域が持つ価値を活かしたさらなる価値創出

灯台資料館を拠点とした草の根的な活動により持続的な価値創造や、イベントに留まらない価値創造により地域主体間の化学変化を促す

◎量より質の集客戦略への転換

「安乗で一泊」・「安乗で一食」をキャッチコピーとして、安乗埼灯台とその周辺での滞在時間を延ばし、消費金額の増大に繋がる集客をより多く進めていく

B.実施体制について～熱量をもった主体となる団体や個人を巻き込むこと～

課題

より「地域の輪」を広げる必要がある！

地域関係者それぞれが試行錯誤している力を束ねて、より魅力のある事業をすべき

安乗人形芝居保存会、安乗岬旅館組合、漁師の皆様 等



施策

◎より強固なプラットフォームにつながる事業推進

安乗人形芝居保存会や、安乗岬旅館組合等の地域の既存団体と連携の道を模索し、各団体にとって実施価値のある事業を計画していく。

- ・ ANNO-Rider事業
- ・ 安乗地区ご当地グルメの開発
- ・ あのり学会（仮称）の組成 等

引き続き、地域関係者がそれぞれ試行錯誤しているなかで、結節点を見つけ、持続可能な仕組みづくりを目指す。

C.収支について～運営費と収益を将来にわたって均衡させること～

課題

事業収支に大きな課題が…！

交通インフラ問題を解消するため、イベントコストが超過した



施策

◎各地域主体との役割分担をした自立的な地域運営

イベントの運営回数の見直し、不特定多数を集める無料イベントから、高付加価値な有料ツアー等の開催を検討
※灯台の夜間特別見学の実施（ワンドリンク制、星空観察会等）

今年度事業により明らかになった課題と、そこから導かれる施策方針に基づき、安乗埼観光活性化を推進していくうえでの基本計画を次のとおり策定した。

【今後の計画】基本計画の三本柱

今後、下記の3つを柱とし、民間主導による安乗埼灯台観光活性化を推進していく。これらの詳細は次々ページ以降「資料」を参照のこと。



灯台資料館を核とした民間主導型体制づくり

- 安乗埼灯台資料館を、市民活動の拠点としても活用できるよう整備を進める。
- 民間組織が主導し、地域活性化事業の実施による地域の魅力化により地域事業者が受益者となり、地域事業者は、地域活性化事業への協働や資金協力により地域活性化事業が加速化するという互惠関係を築く。
- 一方で、行政は民間組織の活動を灯台観光活性化の政策的位置づけや主に許認可面でのバックアップを行う。



安乗埼灯台観光活性化プラットフォーム形成

- 安乗埼灯台観光活性化を推進するために、地域プラットフォームを形成する。
- その地域プラットフォームのなかで、民間組織は、地域の「中核マネジメント組織」として、志摩市等公共機関や専門家のアドバイス等の支援のもと、各種事業のマネジメントを担う。
- 民間組織のマネジメントのもと、事業ごとに個人や事業者等法人、あるいはコンサルタント等の外部団体によりタスクフォースが構築され、各事業を推進していく体制とする。



公益性と収益性を両立させた事業実施

- 灯台及び周辺地域においては、民間組織による①交流、②学習、③集客、④回遊、⑤発信の5種の事業を行う
- それらの事業はそれぞれ下記の3つに分類される：
 - 営利活動：その活動により、その事業費を上回る収益を上げることのできる事業
 - 準営利活動：協賛金や参加費等で、その活動の事業費の全部または一部を補填する事業
 - 非営利活動：公益性が高く、直接的な収益を生まない活動
- 5ヶ年計画により14の事業を推進し体制の自走化を図る。

事業名：安乗埼灯台利活用推進事業

助成金終了後、本事業は新たな灯台利活用モデル事業が定義する「自走化4分類」のうち、以下を目指します

本事業が 目指す型	分類	自走化の方法	中心となる事業者
	I ビジネス型	灯台および付属施設等をホテルなどに利活用する、 または 灯台および周辺地域の魅力をコンテンツとして利活用することで、 <u>ビジネスとしての収益化を達成し、自走する。</u>	民間事業者
	II 非営利 収支均衡型	灯台及び周辺施設等を活用し、 イベント開催や観光ガイド等を組織しながら、主として、 <u>収支均衡となるような小規模の地域活性化事業を行い、 非営利団体として、自走する。</u>	非営利任意団体、 NPO等
✓	III 自治体 補助金型	自治体が主体となり、 新たに地域課題や観光資源の一つとして 灯台及び周辺施設等を位置づけることにより、 <u>自治体の予算やリソースが投入され、自走する。</u>	自治体
✓	IV お祭り協賛型	灯台に係るイベントを開催することで、 灯台を含むエリアの新たな価値と集客・PR効果を創造し、 <u>地元自治体や地域企業からの協賛金や、出店料、 参加者から入場料などの イベント収益によって、自走する。</u>	イベント事業者、 放送局

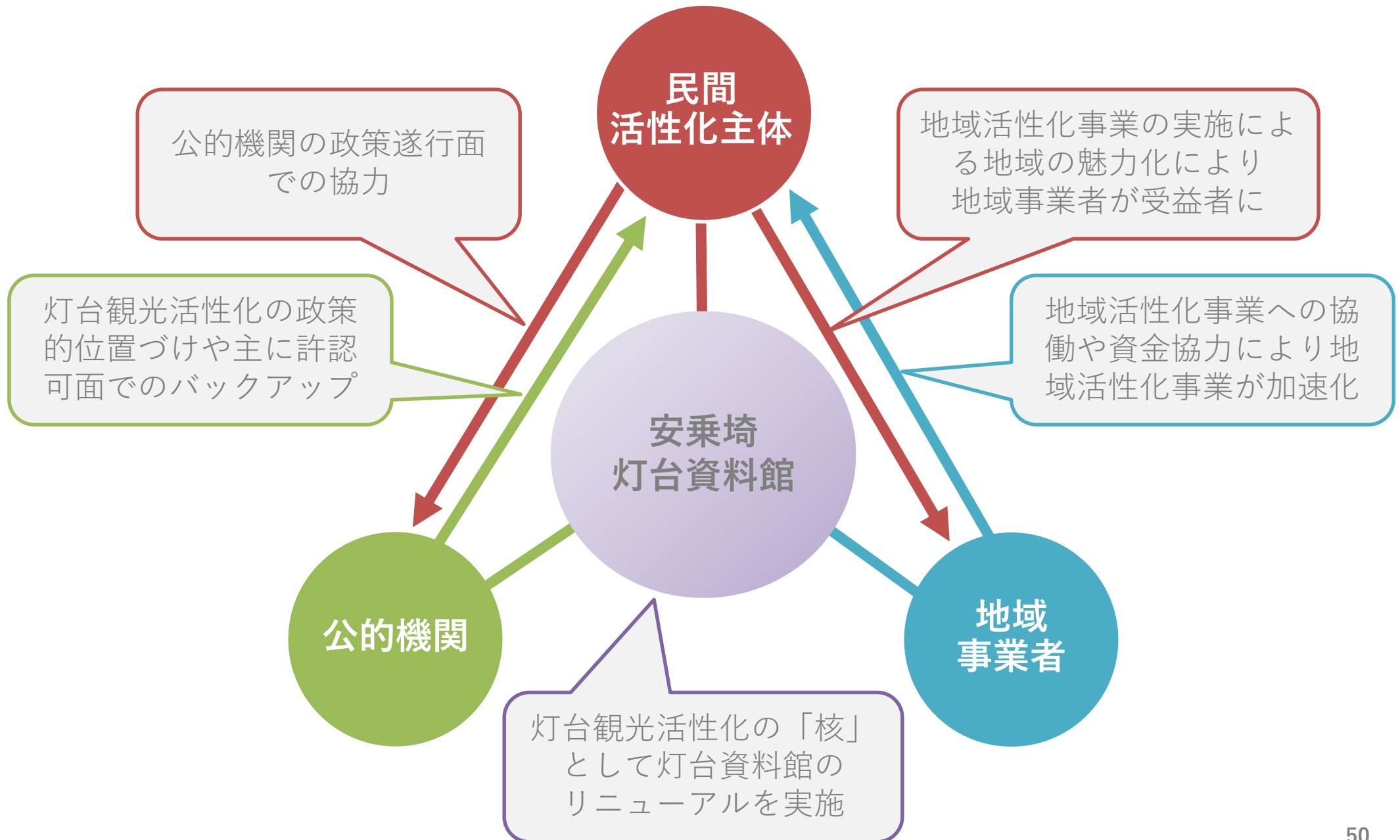
資料

01

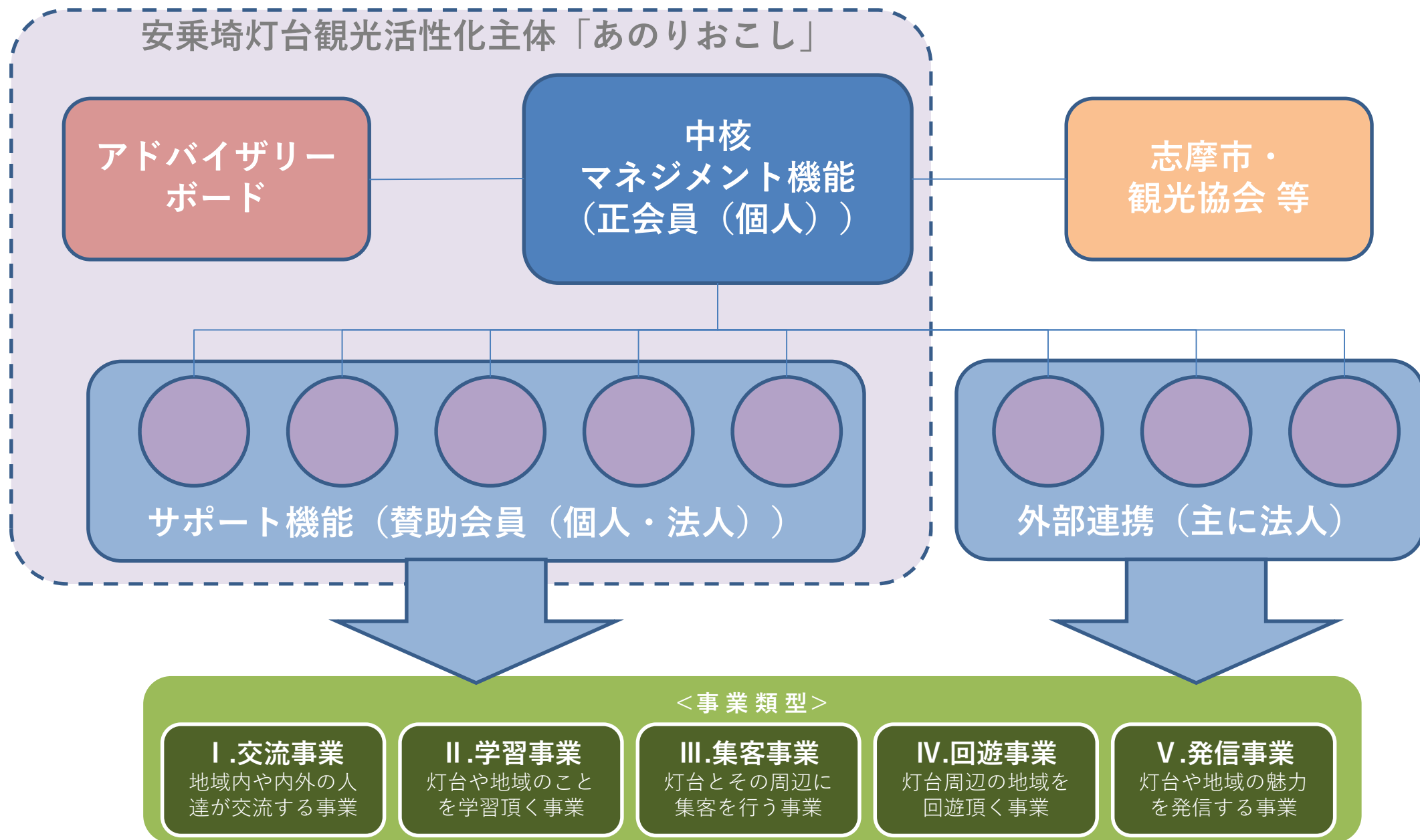
資料その1

事業実施を受けて～今後の事業方針

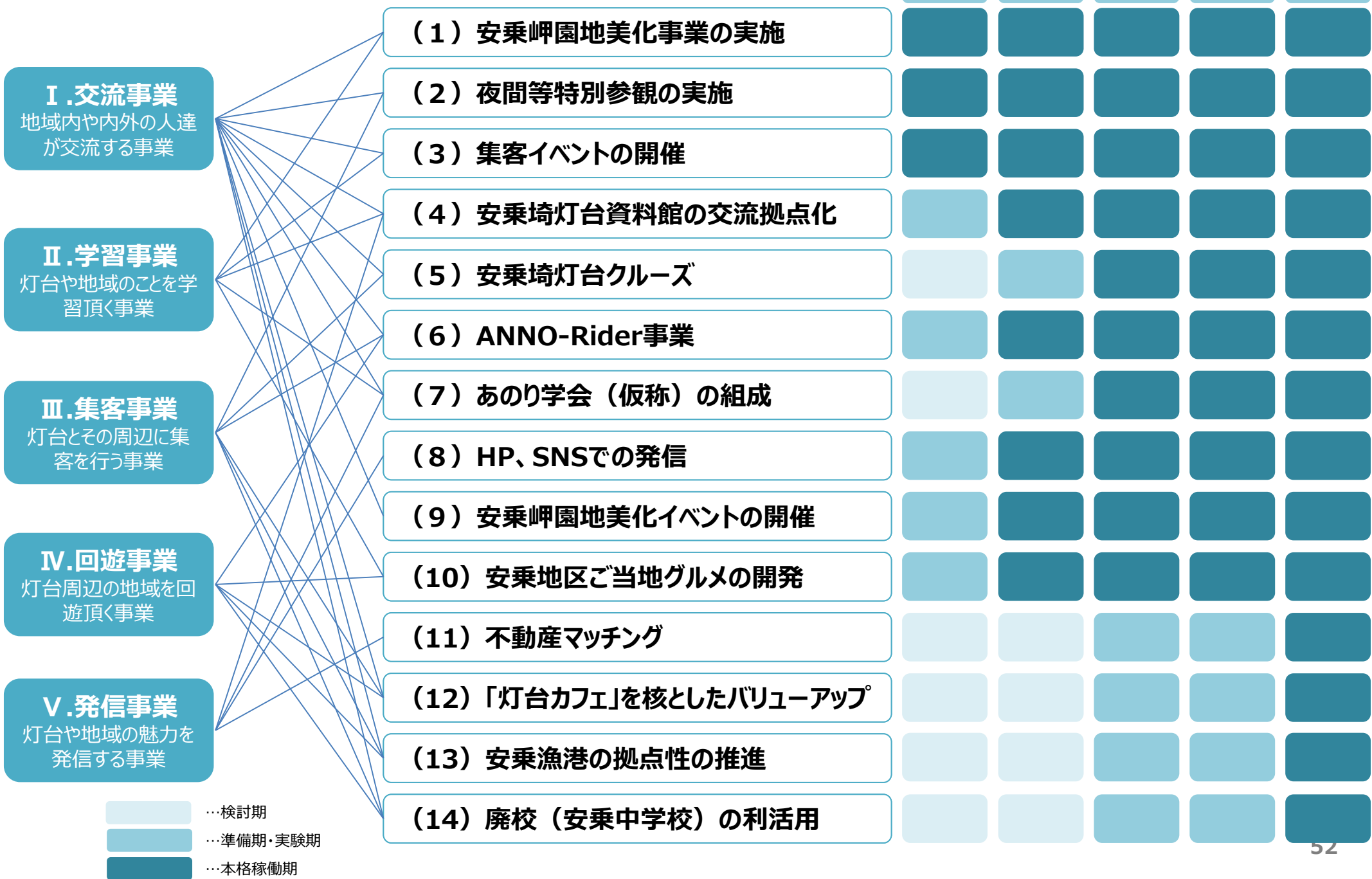
基本計画①：灯台資料館を核とした民間主導型体制づくりの考え方



基本計画②：安乗埼灯台観光活性化プラットフォームの概念図



基本計画③：公益性と収益性を両立させた事業実施



02

資料その2 事業実施案

【1】魅力創出事業 「安乗埼灯台美化事業の実施」

■ 非営利活動

1 事業の実施概要

- 安乗埼灯台とその周辺の美化を目的とした、芝刈り、剪定、ごみ拾い等を年複数回実施する。
- 年間実施回数には精査を要するが、従来の地元有志及び地元自治会に声かけを行い実施する。
- (9) 「安乗岬園地美化イベント」のプレイベントとして実施し、美化イベントの準備を併せて行うことも考えられる。

2 ターゲット選定

- 地元有志及び地元自治会等

3 実施スケジュール

- 2025年度から実働開始。

【2】魅力創出事業 「夜間等特別参観の実施」

■ 営利活動

1 事業の実施概要

- 集客イベント開催時や大晦日の夜など、特別参観を実施する。実施スケジュールは下記のとおり：
 - 大晦日～元旦（初日の出参観）
 - ゴールデンウィーク期間
 - 7月「夏の段」時
 - 11/1（灯台の日）直後の土曜日の夜
 - 12月「冬の段」時
- 回によっては、ドローンを使った撮影会なども実施し、参観のインセンティブを付与する。
- 特別参観料は通常時の参観料よりも高めに設定する

2 ターゲット選定

- 市内・地域住民から広域からの観光客等、実施イベントの集客対象に合わせ弾力的に対応。

3 実施スケジュール

- 2025年度から実働開始。

【3】交流拠点化事業 「集客イベントの開催」

■ 準営利活動

1 事業の実施概要

- 7月に「夏の段」、12月に「冬の段」を開催。実施内容は2024年度の成果を踏まえ、今後精査。
- 将来的には、冬の段開催時点において後記「あのり学会（仮称）」の発足を踏まえ、「安乗埼灯台フォーラム（仮称）」を同時開催。当該フォーラムでは安乗文楽などの舞台上の出し物も開催。
- 地元で伝承する文化や風習とクラシックアートを掛け合わせた、園地の文化性や質感向上に資する灯台プロジェクションマッピング及び夜間アートイベントの開催

2 ターゲット選定

- メインターゲット：30代～40代の親子連れ
- サブターゲット：20～60代の仲の良いカップル
- 近隣住民に加え、広域からの「プラスワン集客」を図る

3 実施スケジュール

- 2025年度から実働するが、その規模感については資金調達の程度によって弾力的に対応を行う。

【4】交流拠点化事業 「安乗埼灯台資料館の交流拠点化」

■ 非営利活動

1 事業の実施概要

- 安乗埼灯台資料館を交流拠点として管理・活用し、市民や来訪者が灯台と触れ合い、学ぶ機会を創出するとともに、タウンミーティング等を開催し、安乗地区への造詣を深める場としていく。

2 ターゲット選定

- 安乗地域の市民活動団体等が活用
- 市民活動団体の活動熟度に応じ、将来的な指定管理も視野に入れ検討

3 実施スケジュール

- 2025年度中の展示リニューアル工事に平行し、活動内容を精査検討。
- 2026年度から本格的に利活用を進める。

【5】魅力創出事業 「安乗埼灯台クルーズ」

■ 営利活動

1 事業の実施概要

- 岩礁に引っ掛かりにくい小型船舶で、安乗埼を海から楽しむショートクルーズを実施
- 安乗漁協の協力を得て、既存の漁船（定員12名以下）を活用し、「人の運送をする不定期航路事業」の届出を行う。なお併せて遊漁船業の県知事登録を行うことが望ましい。クルージングの際に海女漁で採れた海産物の差し入れサービスもありか。
- 宿泊・夕食とセットにしたツアープログラムを造成し、造成したプログラムはJTB-Böken等で販売

2 ターゲット選定

- カップル等少人数団体をメインターゲットとする。
- 比較的価格を抑えたクルーズのほか、海女さんからのサービスを付加した高付加価値型高価格帯のサービスも検討。

3 実施スケジュール

- 2025年度中に安乗漁協からの支援のもと、許認可等を精査し実施準備を行う。2026年度中にモニターツアーを実施。
- 2026年度から一般販売を開始する。

【6】魅力創出事業「ANNO-Rider事業」

■ 準営利活動

1 事業の実施概要

- 安乗埼灯台の参観者を増進させることを目的に、安乗旅館組合の組合員如何にかかわらず、安乗地区の指定宿泊施設（ANNO-Rider事業参画宿泊事業者）に泊まったバイカーは灯台参観を無料にするチケットを配布（参観費用は各宿泊施設が負担）
- 各宿泊施設はバイカー宿泊のための設備を整え、施設毎に特別ノベルティを配布。
- パールロード～安乗地区の立ち寄りマップを作製・公開。スマホマップとして公開するほか、QRコードを示したポスターを三重県下の道の駅等にて掲示。

2 ターゲット選定

- 中京圏、関西圏のツーリングを趣味とするバイカー（個人または団体）

3 実施スケジュール

- 安乗地区に宿泊するバイカー向けツアープログラムを造成し、2025年度中にモニターツアーを実施
- 2026年度以降にJTB-Böken 等にツアーを登録

【7】魅力発掘・発信事業 「あのり学会（仮称）の組成」

■ 非営利活動

1 事業の実施概要

- 東海中学校で安乗地区の郷土史を学ぶ生徒を集めた部活動的な団体を学校内に創設。「あのりおこし」がカリキュラム造成、講師派遣を行う。「安乗文楽人形芝居保存会」、「海上保安庁鳥羽海上保安部」、「三重外湾漁業協同組合安乗事業所」、「志摩市歴史民俗資料館学芸員」、「JTB総合研究所」等が講師候補。
- 地域活動団体のファシリテートにより、定期的（月1回程度）の調査活動及びワークショップを行う
- 調査活動成果を、年に一度「安乗埼灯台フォーラム（「冬の段」と同時開催）」にて発表

2 ターゲット選定

- 初期：地域内及び市内に居住する有志
- 中期：東海中学校の生徒
- 成熟期：関連する学を修めるアカデミック関係者

3 実施スケジュール

- 2025年度中は地域内及び市内で成人を対象に有志を募り、少人数で活動開始。その活動と並行し教育所管と協議を行い、中学校を巻き込んだ活動として2026年度に試行的活動を行い、2027年度から本格稼働

【8】魅力発掘・発信事業「HP、SNSでの発信」

■ 準営利活動

1 事業の実施概要

- (7) 「あのり学会（仮称）」の活動内容を元に、安乗埼灯台を中心とした安乗地区のWEBを用いたPRを行う。当面はInstagram等SNSで発信を行い、将来的にはウェブサイト「あのりポータル（仮称）」を立ち上げ、発信
- 「あのりポータル（仮称）」では安乗地区内の事業者（旅館組合等）から広告を募り、広告費により運営

2 ターゲット選定

- 旅行、観光、地域史等に関心をもつ全国の居住者
- 将来的にはインバウンドにも対応

3 実施スケジュール

- 初期はSNSでの発信のみを行い、今後の発信戦略の立案に力を入れる。
- あのり学会（仮称）の立ち上げに合わせてHPを創設。

【9】魅力創出事業 「安乗埼灯台美化イベントの実施」

■ 準営利活動

1 事業の実施概要

- 安乗埼灯台とその周辺園地の美化を目的とした、草刈り、ごみ拾い等のイベントを年2回程度（春・秋）実施する。
- 開催準備は（3）にあるとおり、地元有志及び地元自治会の協力により行うが、当該イベントそのものは国府小学校との連携により、小学校高学年の課外授業として、「学びながら（楽しみながら）安乗岬園地をキレイにする」といったイベントに仕立てることが望ましい。
- 実施内容は今後精査を行うが、チーム戦で、チーム毎のミッションクリアポイントの合計点を競い合うことを基本とする。

2 ターゲット選定

- 国府小学校の生徒（主に高学年）

3 実施スケジュール

- （1）「安乗岬園地美化事業の実施」を先行し、その実施成果を基に教育所管と協議を進め、2026年度秋の開催を目指す。

【10】魅力創出事業 「安乗地区ご当地グルメの開発」

■ 非営利活動

1 事業の実施概要

- 三重県立水産高校（水産資源科）と連携した、「安乗」ブランドの新グルメ開発。
- 「安乗漁港で水揚げされた水産物を使った料理・土産物」という制限のなか、高校生が試作品開発。志摩市商工会と連携した試食会を開催し、商工会加盟事業者が試食。事業者が自らの店舗で取り扱いたい商品を選択し、試作品開発を行った高校生とともに商品としての仕上げを行い、商品化する。
- 水産関係に強い料理研究家が高校生の試作品開発をサポート。開発商品は安乗岬園地でのイベントに出店。

2 ターゲット選定

- 三重県立水産高校を第一候補として協議・調整を行う。

3 実施スケジュール

- 2025年度に開発を開始。2026年度の商品化・販売開始を目指す。

【11】魅力創出事業「不動産マッチング」

■ 準営利活動

1 事業の実施概要

- 安乗地区で民泊、物産店等店舗を開業したい人を募り、安乗地区内の不動産とマッチング
- 将来的には、商工会や信用金庫等と連携し、民泊開業講習や起業講習などのコンサルティングサービスと一식으로支援するほか、安乗地区での起業者同士のマッチングビジネスを展開。同時に空き物件のリニューアルを促進。

2 ターゲット選定

- 安乗地域市街に出店をしたい事業者、宿泊業等を新たに希望する起業者等。

3 実施スケジュール

- 長期的な検討が必要。

【12】魅力創出事業 「灯台カフェを核としたバリューアップ」

■ 営利活動

1 事業の実施概要

- 上田商店「灯台カフェ」にBBQ施設及びテラス、入浴施設、グランピング施設等の付帯施設を面的に整備し、園地全体の空間のバリューアップを図る。
- 既存の都市再生整備計画や法令規制に準じ、観光客の来訪動向やニーズを踏まえ、官民連携事業での開発可能性を調査する（パークPFI等）

2 ターゲット選定

- ターゲットも含め精査が必要。

3 実施スケジュール

- 長期的な検討が必要。

【13】魅力創出事業 「安乗漁港の拠点性の推進」

■ 営利活動

1 事業の実施概要

- 水産庁「海業（うみぎょう）」を活用し、（4）「安乗埼灯台クルーズ」の発展的取り組みとして、シーカヤック、釣り船体験等マリンアクティビティの推進を図る。
- 採れたての海の幸を快適に食す、「海女小屋」的な施設をコアコンテンツとする案も考える。

2 ターゲット選定

- （4）「安乗埼灯台クルーズ」のターゲットに準ずる
- 受け入れ態勢のキャパシティによってはインバウンドにも対応する。

3 実施スケジュール

- 長期な検討が必要。

【14】交流拠点化事業「廃校の利活用」

■ 営利活動

1 事業の実施概要

- ・ 旧・安乗中学校を活用した営利事業の実施。農業等体験型民泊など。
- ・ 陸上養殖での、あのりブランド製品の開発、バリューチェーンの構築など

2 ターゲット選定

- ・ ターゲットも含め実施事業の精査が必要。

3 実施スケジュール

- ・ 長期な検討が必要。

03

資料その3 ヒアリング記録

【1】安乗人形芝居保存会

実施日時 2025年2月5日(水) 18:00～
実施場所 安乗漁民センター

1. 安乗埼灯台について感じていること、「こんな場所になって欲しい」という思い

- 灯台は「安乗のもの」というイメージがない。志摩市が関わっていることは分からなかった。
- 安乗埼灯台は富士山が見えるということが特徴。だが草刈などの管理がおざなりになっているのが問題。
- 昔は灯台の横の階段から海に下りられた。
- かつては心のふるさとのような場所だったが、20年位前、志摩市が合併した時期からお金払って参観しなくてはいけなくなってから、少し心の距離感ができ、長寿会が園地を使うことをよしとしなくなった。
- 園地で悪戯もされた。

2. 安乗埼灯台を観光地にすること、または安乗埼灯台を契機とした地域活性化のアイデア等

- 保存会は人形芝居を神事として奉納することが第一であり、それで精一杯。
- 芝居の舞台から灯台へ通じる道を明るくする。
- 夜間参観の際の道の照明が必要。
- 官舎の周りを映画の時代を再現してはどうか？
- 海外の方が関心を持ってもらうのは嬉しい。
- (9月の公演のほかに) 年に1回くらいの上演であれば可能。

(特にそれぞれの事業者の立場として)

3. 「安乗埼灯台観光活性化」のこれまでの取り組みに対して感じていること、ご意見

- イベントすることはありがたいが、裏の道が崩れていて通れなくなっている。
- イベントだけの灯台ではない。観光客だけがよければよいのか、地元はどうでもよいのか。協力したくなくなる。市が関わるなら草刈ボランティアに足代位だせばよい。
- 市が管理することに違和感はないが、崩れた道の補修や草刈など、やるべきことが違うと思う。
- イベントに関わりたくなくても、関われない雰囲気がある。
- 若い世代の人たちが色々な（外部の）業者を連れてくる。
- 旅行社のイベントで人形を使った際も人形が傷み、補修費がかさむ（やらない訳でない）

4. 「安乗埼灯台観光活性化」の今後の方向性、体制作り、協業の可能性について

- 保存会はコロナ以降50万円ほど赤字であった。市にいてもその補助はダメだった。
- 市以外の外部補助を申請していて、個人として資金は欲しいがなかなか難しい。
- 年に1回くらいは祭りでイベント的なことならという意見もあるが、採算が合わない。
- 海外の人からの受けはとてもいい。
- インバウンドの受け入れを頻繁に行うことは対応が難しい。
- 教育ビデオを自前で作って、教えている。6月から練習して9月が本上演。
- 9月の公開は150席がいっぱいになって立ち席もできるくらい。
- イベント的に行う場合は9月以降。
- 舞台のトイレが不備あり、観客は灯台まで行ってもらっている。

【2】安乗自治会

実施日時 2025年2月6日(木) 10:00～
実施場所 安乗漁民センター

1. 安乗埼灯台について感じていること、「こんな場所になって欲しい」という思い

- 灯台観光が進んで地域にお金が落ち、園地で地域の人たちが交流できる場であって欲しい。
- かつて草木が伸びて視界が悪くなった時期がある。それに比べいまでは幾分か見通しがよくなったが、それでも観光できたお客さんは「二度と来るか」と思われかねない。
- 市のOBの再雇用が進みボランティア作業は難しいところがあると感じている。
- 景色は他の灯台と比べても良いと思い、トイレもきれいになった。
- アクセス路が狭いのがネック。
- 安乗の民宿は半減し、対岸の相差地区に比べて歴然の差なので、前のように再生して欲しい。
- 老人会は月に2回例会で集まり、ゲートボール等にも使っていた。
- イベントがあっても鵜方の方で、旅館には恩恵がない。
- 旅館組合は安乗に泊まるような事業を考えてほしい。

2. 安乗埼灯台を観光地にすること、または安乗埼灯台を契機とした地域活性化のアイデア等

自転車のイベントで安乗からスタートにできるよう、交渉できる余地はある。
スペイン村はVチューバーで人がすごい来たが、市でインフルエンサーの招聘はできないか→安乗だけでは難しい。民間が先導して動いて、それを市がバックアップする形になるといい。安乗に泊まる人が増えたらと思い草木の伐採を行ったら、旅館組合から「木を切るな」と苦情がきた。環境省に確認したが、剪定はむしろすべきだ。旅館組合は伐採をさぼる口実にしているのではないか。民宿の承継。
アクセス路の改善。初日の出を見る会で有志会は混雑解消のために交通整理をしている。
日常の清掃。広場は観光課がやってくれているが、遊歩道がジャングル。海岸沿いを歩くのは抵抗がある。草刈は必要。

(特にそれぞれの事業者の立場として)

3. 「安乗埼灯台観光活性化」のこれまでの取り組みに対して感じていること、ご意見

安乗地区は空き家が多いのが課題。

安乗有志会は人数が減ってきて熱意のある人は減ってきている印象。商売をやっている人は熱意のある人もいる。

がんばりたいという方がいたら自治会としては支援したいと思っている。

「あのりおこし」が立ち上がってがんばろうとしても協力者が集まらない。

4. 「安乗埼灯台観光活性化」の今後の方向性、体制作り、協業の可能性について

みんな自分たちの生活維持で目いっぱい。

みんなを集めた勉強会をやって共鳴するひとを集めてはどうか。

一棟貸民宿TOMEDAのような、移住者だが地元とよく交流する域外の方とも協力するなども新しい形である。。

潤うのは10年先だが、もっと目先のメリットが必要。

はじめは全くのボランティアでスタートしても、それでは長続きしない。

【3】安乗岬旅館組合

実施日時 2025年2月6日(木) 13:30～
実施場所 丸保商店

1. 安乗埼灯台について感じていること、「こんな場所になって欲しい」という思い

- 園地の環境をきれいにしてほしい
- 盛り上げのイベント検討はそのあとの段階ではないか
- 特定の1社に休憩所を貸すことの誤解を解いたほうがいい（誤解があるように見える）
- 例年と比較し、今年は特にこの1月はお客が少ない。鳥羽も同様とのこと。

2. 安乗埼灯台を観光地にすること、または安乗埼灯台を契機とした地域活性化のアイデア等

- 園地の草刈や道路の管理が重要
- 休憩舎から海が見えるように木を切ってしまったのは困る
- 休憩舎はカフェではなく文楽の展示場所になるとよいのではないか
- 安乗は歴史があって、それをなんとかしたら客が呼べるようになるのではないか
- イベントばかりではダメ
- あのりふぐ協議会でワッペンシールをつくってはどうか

(特にそれぞれの事業者の立場として)

3. 「安乗埼灯台観光活性化」のこれまでの取り組みに対して感じていること、ご意見

- 旅館組合としてどんど焼、浜掃除、ふぐまつりなど色々な行事で地域の為に活動をしている
- 組織としては12軒加入（2軒未加入）
- 月1回定例会を行っている
- 旅館組合員に危機感が薄く、アイデアも少ない
- 旅館組合員に、グランピングで成功している人がいる。
- 埋め立てて駐車場にして、そこから歩いて行かせるとよい。
- 海岸近くに公衆トイレもある

4. 「安乗埼灯台観光活性化」の今後の方向性、体制作り、協業の可能性について

- これからどうしていけばいいか会合のなかでも意見出しをしているが、いい意見はない。
- Anno-Riderの取り組みについて、バイク専門にして安くしている宿もある。
- やりたいという旅館もあるだろうから、これから一緒に取り組むことも一考。

(「丸保商店」の立場で)

5. 「丸保商店」のこれまでの取り組みと今後の展開の可能性

空いた保養所を受け継いで旅館をやり、水産物販売の二刀流でやってきた。水産物販売は50余年。ほかに掛け持ちをしている宿はない。
息子が跡継ぎ。漁協からフグを仕入れ、市場には出荷せず、仲卸・小売りをしている。フグは好調。全国的にフグが獲れすぎて値崩れを起こしている。
安乗には安乗フグ協議会がある。安乗にフグに来た人にワッペン（シール？）をプレゼントしたらどうかという意見が出たが、一行に進まない。

6. 「安乗埼灯台観光活性化」の今後の方向性、体制作り、協業の可能性について

フグ祭りは今年で15回目

【4】三重外湾漁業協同組合安乗事業所本所

実施日時 2025年2月6日(木) 15:00～
実施場所 安乗事業所

1. 安乗埼灯台について感じていること、「こんな場所になって欲しい」という思い

- 船の関係者には灯台はとても重要
- 事故防止、安全のため
- 地元の生産物と来客がリンクするのが理想的
- 中学校のグラウンドだったので地元の人にとっても大事な場所
- 孫を連れていく場所

2. 安乗埼灯台を観光地にすること、または安乗埼灯台を契機とした地域活性化のアイデア等

- 観光としても、水産関係者としても、海の景観、あのりふぐ、灯台はセットである
- 大漁旗の貸し出しやふぐ汁の提供など、漁協としては出来る範囲で行うことにしている
- それ以上のことは組合長として進言できる状態ではない
- 青年部の組織もあるが同様ではないか

(特にそれぞれの事業者の立場として)

3. 「安乗埼灯台観光活性化」のこれまでの取り組みに対して感じていること、ご意見

- 東京のみえテラスで安乗フグのプロモーションは行っているが、観光的なことはやっていない。
- 観光客が漁港にきて、仕事を見せることは慣れていない（受入するところでの普段への影響大）

フグは一艘毎で、特大、大、小のそれぞれ3つの仲買いが買う。

仲買いは安乗の仲買いと三重漁連。仲買いの販売先は関知せず。

漁師が漁協に出さずインターネットで直販する地区もあるが、安乗では誰もやっていない。

これらのことから総じて(安乗漁協)は連帯を重んじる地域性が強いのではないか。

4. 「安乗埼灯台観光活性化」の今後の方向性、体制作り、協業の可能性について

- 鳥羽のインバウンドの会社が安乗でなにかやりたいと相談がきた。
- 協力できる範囲で協力するというので、2名外国人が来ることになっている。
- 船に乗ってぐるりと回ってもらう、海女さんに潜ってもらう（海女さんがいいと言えば）、ということができればと思っている。
- なにか「こういうことがやりたい」ということがあれば、できることには限りがあるが、改めて相談してもらえるといい。